『五箇条ノ御誓文』から『教育勅語』^

―明治の開国と昭和の開国―

平川祐弘

明治元年の『五箇条ノ御誓文』から明治二十三年の『教育勅語』にいたる明治前半の歴史を、この二つの文書を中育勅語』にいたる明治前半の歴史を、この二つの文書を中言勅語』にいたる明治前半の歴史を、この二つの文書を中でに、それにまつわる個人的体験を織り交ぜることで、記させていただく。この移り変わりは「開国から愛国へ」とさせていただく。この移り変わりは「開国から愛国へ」とさせていただく。この移り変わりは「開国から愛国へ」とさせていただく。この移り変わりは「開国から愛国へ」とさせていただく。この移り変わりは「開国から愛国へ」とさせていただく。この移り変わりは「開国から愛国へ」という国是の重点の置き方の変換を示したものと私は巨視的いう国とのでは、自然を表して、この回想を交ぜて書く私史である。『五箇条ノ御誓文』とての回想を交ぜて書く私史である。『五箇条ノ御誓文』といって少年時代の記憶に歪みがないという保証はない。しかし八十を過ぎた今、そのような個人的な追懐を記すこともまた大事な学者の仕事であると自覚される年齢となった。もまた大事な学者の仕事であると自覚される年齢となった。

始めに個人的体験にふれさせていただく。国が昭和の開国といかに重なるかを述べさせていただく。一部には重視するあまり内容の批判をも斥ける傾きにある。一部には重視するあまり内容の批判をも斥ける傾きにある。中学界の一部にはそれを軽視するあまり無視し、また別の史学界の一部にはそれを軽視するあまり無視し、また別の史学界の一部にはそれを軽視するあまり無視し、また別の史学界の一部には大戦後の歴

明治の開国と戦後の開国――個人的体験

五箇条ノ御誓文ヲ下シ給ヘリ。曰ク」とまず『五箇条ノ御「茲ニ新年ヲ迎フ。顧ミレバ明治天皇明治ノ初国是トシテに及んでいる。しかしラジオでアナウンサーが朗読するのに及んでいる。しかしラジオでアナウンサーが朗読するのに及んでいる。しかしラジオでアナウンサーが朗読するのには記され、世間は天皇の「人間宣言」と取沙汰して今日には記され、世間は天皇の「人間宣言」と取沙汰して今日には記された。昭和二十一年一月一日、昭和天皇は『詔書』を出された。昭和二十一年一月一日、昭和天皇は『詔書』を出された。

たということである。誓文』が朗読され、それを聞いてはっとし、かつほっとし

一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フベシー、広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ

一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦

マザラシメンコトヲ要ス

識を世界に求めなければならない、と痛切に同感した。旧文』の第四、第五の条を聞いたときは、そうだ、日本は知れている、そう気づいてはっとしたのである。また『御誓理と同じことがすでに『五箇条ノ御誓文』の冒頭に述べらちろん新聞を読んでいた。そうした少年が、民主主義の原読む二人の少年の一人だったが、そんな少年は敗戦後はも

自覚した人々によって発案され実施された特別科学組に選や許されない。私は戦争中、日本の科学戦における劣勢を来の日本に閉じこもっていては駄目だ。そんなことはもは

敗戦の年の秋には兄と話しあったことがある。世界を敵にばよかった。「大欲ハ無欲ニ似タリ」とはこのことか」とらかに大失敗であった。「せめて満洲で鉾をおさめておけ駄目だと自覚していた。日本帝国の軍国主義的な膨脹は明駄目だと自覚していた。日本帝国の軍国主義的な膨脹は明駄目がと自覚していた。そんな期待の目で見られたばれ集中的な教育を受けた。そんな期待の目で見られた

のだが、私たちは明治以来の日本の過去を全否定する必要を進んだ。その自覚は強かった。そんな科学面、軍事面、経済面、政治面などで「遅れている日本」と感じた。それを進んだ。その自覚は強かった。そんな科学面、軍事面、まわすこととなった昭和前期の軍部主導の日本は誤った道まわすこととなった昭和前期の軍部主導の日本は誤った道

Feudalism is overとマッカ

ーサー元帥の

声明を暗

誦した

英語の時間に

りした。私は疎開中も教官室に配達される新聞を毎日必ず

そうした思想の変動期であったから、

でしんみりと答えたので、高校生になっていた私ははっと態にしてしまったのはわしらの世代の責任だ」と重い口調同調せず「明治以来の先輩が築いてくれた日本をこんな状ある日、食卓でそんな批判を繰返したら、父は私の批判にある日、食卓でそんな批判を繰返したら、父は私の批判にたちの軍部批判なども、世間の風潮次第だったのだろう。

進むべき道がすでに『五箇条ノ御誓文』という国是によっを帯びていた。その「智識ヲ世界ニ求メ」るという日本の前夜の昭和十四年当時でも父の「洋行」という言葉は輝き世界ニ求メ」ることは当然であった。というか太平洋戦争

口をつぐんだ。

郎の について英語を習わせようとした。 系出身者が揃っていた家庭だったから、 を殺害した五・一五事件や二・二六事件の青年将校に対す アッパー・ミドルに属していた。そのような家では、 だく。父は大正七年に京都帝大を出た技術重役で、 史を記すに際し、家庭の背景にふれることを許させていた かったのだとしたら、それには多少説明が要る。ここで私 だろうか。だがそのような感覚がもし私の家でとくに強 グの歴史物語が日本国民に広くアッピールしたのではない だと思う。それだからこそ敗戦後二十年が経つと司馬遼太 た。このような気持は多くの家庭でわかちもたれていたの ず、それを引き続いてこれから先も進めばよいと感じてい に基くべきことがすでに良しとされていた。それを逸脱せ 通ったのだが、 した父は昭和十五年に、小学校三年生の私をアメリカ婦 第二次世界大戦の勃発にともない西洋滞在を切上げて帰国 ら讃美する風潮に対しては戦時中から違和感を抱いていた。 や、私は愛国少年だったけれども、それに同調した。 についての責任は軍部にあるとする批判が世間に出まわる る反感は以前からあった。それだから敗戦後、昭和の動乱 『坂の上の雲』という明治のネーション・ビルディン 明治の初年から日本ではこうした国際社会の公道 悪いことをしているような感じで小学校の 駿河台のYWCA 日本精神をひたす 理工 人

である。
 てさし示されていたということが再確認できたとき、軍部でさし示されていたということが再確認できたとき、軍部の初心に戻り、日本がふたたび開国和親の西洋化路線明治の初心に戻り、日本がふたたび開国和親の西洋化路線明治の初心に戻り、日本がふたたび開国和親の西洋化路線のとしたのだ。いま思い返しても、あの時の少年の心がはっとしたのだ。いま思い返しても、あの時の少年の心が本能的に感じたことは間違っていなかったという気がする。それというのは明治元年は近代日本の開国第一年であり、本能的に感じたことは間違っていなかったという気がする。それというのは明治元年は近代日本の開国第一年であり、本能的に感じたことは間違っていなかったという気がする。

でもあったろう。

攘夷の旧弊を捨てて開国に向う明治維新を地方から見た島 ヴァイタリティーを感じさせる闇屋やブロ たのである。 らの復興を日本の焼跡からの復興と重ねあわせて読んでい だったが、私たちは南部アメリカのアトランタ市の 顔をして闊歩し レット・オハラを描くミッチェルの『風と共に去りぬ』 えば昭和二十年の秋に私が夢中になって読んだ第一の書物 私はその後も二つの開国をなにかと重ねあわせた。たと 敗戦の焼跡から明日の太陽を信じて立ち上がるスカー 敗戦後の日本にもレット・バトラーのような っていた。 夢中になって読 んだ第二の書物は 1 カーは大きな

> 上田敏-本が「 代を過した私の先輩として浮かび上がったのは一種の必然 なるのである。 として戦後最初期の留学生の一人として西洋に渡ることと に求め、 とをさらに語ることが許されるならば、「尊王攘夷」 後の開国と重ね合わせていたのである。 崎藤村の 開国和親」に転ずるや明治の留学生が新知識を海外 ――そうした人たちが敗戦後の祖国復興期に学生時 祖国の建設に邁進したように、私も森鷗外らを範 『夜明け前』 福澤諭吉や中村正直、 であった。私たちは明治 森鷗外や夏目漱石 そして個人的なこ 0 開国を戦 の日

いう名前は知っていても中身は必ずしも知らない。それだい。それというのも、今の日本人は『五箇条ノ御誓文』ととを得たのか。「そこに民主主義原理がすでに出ているととを得たのか。「そこに民主主義原理がすでに出ているととを得たのか。「そこに民主主義原理がすでに出ているととを得たのか。「そこに民主主義原理がすでに出ているとなざ私が『五箇条ノ御誓文』からそんな印象を受けるこなぜ私が『五箇条ノ御誓文』からそんな印象を受けるこなぜ私が『五箇条ノ御誓文』からそんな印象を受けるこなぜ私が『五箇条ノ御誓文』からそんな印象を受けることを得たのか。「

がそんなことまで憶えているだろうかと思うのである。後

英才教育特別科学組

0

員だったと知っている人も、少年

けに私が記憶力の良い人間だと知っている人も、また私

といったりするような、ないものねだりに類した歴史解釈 なかった。 いてみせるような仏文出身インテリ・タイプとは肌があわ にはなじめなかった。自分がフランス人でないといって歎 ような大革命がなかったから市民社会の成立が遅れたのだ 治維新を不徹底な革命だといったり、日本にはフランスの ては左翼の手前勝手な wishful thinking と感じていた。 治維新以来の日本の歴史を全否定するような歴史観に対し の一人は不破哲三だった―― 私はその後、唯物史観を奉じる傾向的な学生たち―― の中で寮生活も送ったが、 も 眀 眀

たのである。

めて早熟な中学二年生の耳にラジオからはっきりとはい

中で滝野川から新庚申塚までは電車のレールが真っ直ぐに 展を輝かしい歴史として感じていた。ごみごみした下町の 子供のころの私は戦中も戦後も維新以来の明治日本の発

> 敗戦後はじめて迎える元旦の日、明治元年の言葉はあらた その五箇条を戦争中に繰返し唱えて記憶していたからこそ はその文言の響きからしてすでにすばらしかったのである のが明治であって、その開幕を告げる『五箇条ノ御誓文』 するようになる。そのように日本の近代に西洋の光がさす 漱石も鷗外も西洋に学んだ知的巨人だからだとやがて確 間よくわからず、徳川時代に対してはなにか暗い別世 私だが、それ以前の江戸時代の文学は大人になっても長 の『吾輩は猫である』や蘆花の『思出の記』を読んでいた どの物質面だけではない。文学面でも小学校四年以来漱 業化された進歩を有難いものに感じていた。工業や医学な のびている。その線に魅力を感じた。そのような近代の いう印象を持っていた。明治以後の文学がよくわかるのは 界と

П 破しインター 閉じられた帝国大学風の古い学問区分の視野狭窄の枠を打 後創設された比較文学比較文化課程ではナショナルな枠で 治日本」を研究の中心課題にすえた。東京大学大学院に戦 代を説き明かすべく比較文化史を志して「内と外からの こんな思い出もある。私はその後大学へ進み、 の入学生、 第一 ナショナルな学問を標榜し 回の留学生だったこともあり、 てい た。 私が第 日本の近 非常勤講 明

そちらが正史でこちらが私史というわけでもないが、ここ 治日本における文明モデルの転換』と題して発表してある。 の章で、その日本語版は れた章は第五巻(十九世紀)の Japan's Turn to the West リユス・ジャンセン教授に要請されたのである。割当てら の御誓文』から『教育勅語』に至る時期を執筆するようマ は、Cambridge History of Japan が企画されるや『五箇条 べていたので、私にとって森鷗外は多くの意味において 取した明治を私はいわば戦後の日本の今の問題としても調 誓文』のような男だな」とギリシャ哲学の井上教授が揶揄 明治日本の国造りに参画し大いになすところのあった人々 その新しい大学院の学問的イデオローグ(木村彰一)とみ 師のような恰好で出講している戦中派の教授とはちがって、 れたことも書き留め、 ロール・モデルであった。そしてそんな仕事をしていた私 ればなるほどそういう風に見えたのだろう。西洋文化を摂 したことがある。影響関係を重視するコンパラティスムが な方向に斯学の意義を主張すると、「平川は であったこととも関係するのかもしれない。私がそのよう なされていた。私自身の研究の対象が知識を西洋に求め、 「智識ヲ世界ニ求メ」た先人の跡をたどる学問であってみ 個人的な思い出をたどることで、前者に書きそび 明治の開国と昭和の開国の重なる所 『古代中国から近代西洋へ― 『五箇条ノ御 3明

以を述べておきたい。

ここで、『五箇条ノ御誓文』や特に『教育勅語』

と国

民

「ジョウゲ」と暗記してその後もずっとそう発音していた たっている。 からである。私は「ショウカ」を異な発音に感じ今にい ウカ」とルビを振ってあるのに驚いた。小学生として 箇条ノ御誓文』の第三条の「上下心ヲ一ニシテ」に「ショ 血肉化する。もっとも私は先年、明治神宮の展示室で『五 をそらんじる、とかいうことはよいことで、暗誦は知識を たとえ意味がよくわからずとも子供が百人一首や『論語 対象が価値ある文章ならば教育として悪いことではない ふれたい。暗記には良い面と悪い面がある。暗記は憶える とを結びつけることに関係した暗記という形の教育にまず

の私は孝明、 後もまだ暫くの間は第百二十四代まで憶えていて、 と中国の王朝の名も憶えた。日本の歴代の天皇の名前は戦 夏、殷、周、秦、漢、三国、晋、南北朝、隋、唐、五代、 ただけでなく、中学一年生の時には東洋史の最初の時間に 綏靖、安寧、懿徳と歴代の天皇の名前をことごとく暗んじ 昭和十年代に小学生活を送った私はよく暗記した。 明治、大正、今上、といって一呼吸おいて、 神武、

には、 させたかつての教育を愚列と指弾した人がいたが、その人 そうしたことで追及したりすることはしない方がいいので 私にとって決定的に戦後となったのは歴代の天皇の名前を れない。それが戦後というものであろうか。しかし戦後が 思っている。しかし昭和の日は制定されても神宮は建立さ 宮に祀られてよい方ではないか、と畏れ多いことながら は国民感情にいかにもかなっているし、昭和天皇も昭和神 を神棚に祀ると同じ意味で、明治天皇を明治神宮に祀るの も思っていなかったのは当然だろう。しかし私は御先祖様 的な意味でのゴッドとか God-Emperor などとは戦時下で なった戦後らしいが、そんな少年たちが天皇をキリスト教 期にあらわれた熊沢天皇と称する人の名を入れるけしから 熊沢、といって級友を笑わせたりした。そんな戦後の混乱(4) たち、そしてイスラエルが忠実に仕えたラケルなどの名を 族長のアブラハムや王ダビデ、イスラエルとその父や子供 はないか。また人民史観の立場から歴代天皇の名前を暗誦 自身が歴代の天皇の名前をみな言えるとも思えないから、 いって憤慨する保守党代議士がいたが、しかしその代議士 房長官は今の天皇は第百二十五代ということを知らないと いつか忘れてしまった時からかもしれない。左翼内閣の官 ぬ悪ふざけが許されたのも、もはや不敬が咎められなく アダムやその息子アベル、ノアや法を立てたモーセ

> 暗誦させた聖書教育も実は似たものだったということを想 起してもらいたいものである。

などといって笑ったりした。 えている。共産軍が南下し始めたころは、これも宋、元、 はもともと覚えなかったが、歴代の王朝の名前はいまも覚 神代とはいわず縄文、弥生といっている。中国の皇帝の名 憶えていた。しかし今の子供は違う覚え方をする。 日本の時代は神代は別格として、大和、奈良、 清、中華民国、といって一呼吸おいて中華人民共和国 室町、安土桃山、江戸、明治、大正、 昭和ともちろん

日本の『マグナ・カルタ』

開 0 は日本が進むべき方向とそれに処する心構えを示した我国 八年)に明治の新政府によって出された『五箇条ノ御誓文』 なおきわめて意義ある文書と私は思う。明治元年(一八六 のさらに四分の三世紀後になろうとする今日においても、 ても日本国民にその行くべき道をさし示す宣言であり、 宣言であったが、その四分の三世紀後の一九四六年にお マグナ・カルタともいうべき一大憲章であった、と私は 『五箇条ノ御誓文』は一八六八年において清新な国是の かれた姿勢がいい。徳川時代の密室政治とは違う、民主 いたい。「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」という

続けている点では旧態然たるものである。『五箇条ノ御誓 文化大革命後の鄧小平の改革開放路線は、 治日本の改革開放路線の宣言であろう。それから百年後 世界ニ求メ」「天地ノ公道ニ基クベシ」という主張は鎖国 ることをすすめてよい教材であると私は感じている。 文』はいまなお日本の義務教育の時間に少年少女に暗 開放であるが、 主義と違う、国際主義を高らかに標榜している。 主義的政治精神をうたっているではないか。 しかし中南海の一党独裁による密室政治を 経済面では改革 また それは 智識 明治 誦す 明 ヲ

しもがな よきを取り悪しきを捨てて外つ国に劣らぬ国となすよ 天皇の晩年の御製に、

たからだろう。 外国へ出たがらない。 精神が衰え、日本の国民全体が引きこもり現象を呈し始め 十一世紀になって減り始めたのは 神とは留学の精神である。日本から外国へ行く留学生が二 とあるが、この精神は健全だ。『五箇条ノ御誓文』 しかしだからといってそういう安直な選択を奨励して 部には夜郎自大の日本至上主義者がいて 確かに日本国内は安全で暮らしやす 「智識ヲ世界ニ求メ」る 0) 精

ジョージ・サンソムは ・ギリ ス の外 交官で優 『西欧世界と日本』の中で『五箇条 n た 日 本史家であ 0 たサ 1

もあり、

だが、このラテン語 Magna Cartaを英語にすると the を近代日本の国是として重んずる一人だが、内外の日本研 は知恵者だったに相違ない。私はこの『五箇条ノ御誓文』 the Charter Oath の英語をあてたのか、それをあてた人 Great Charterとなる。 権利を擁護したとされる『マグナ・カルタ』(一二一五年) 国人にとってもっとも大切な憲章は、 る」、the first constitution of modern Japan と吟 そ使われていないが、これが近代日本の最初の憲法であ とみなしてよい、『五箇条ノ御誓文』は憲法という言葉こ ノ御誓文』を「これが明治の日本の政治の 誰が最初に『五箇条ノ御誓文』に 人民の自由と議会の 源泉であり基 ん だ。 6

文』と歴史的な呼称が載せてある。 文』になっているがそれでも説明 文』と書く。岩波書店の『広辞苑』の項目も『五カ条の 視しないようにしている。 でさほど重視していない。私はそれは戦後の日本史学会に 人もいる。ドナルド・キーン教授は大著『明治天皇』 究者の中には の接頭語をつけて呼ばず日本史教科書にも 戦後の左翼の歴史家は、 傾向的な史観の単なる反映ではないかと感じている 自分の気持に素直に従い 『五箇条ノ御誓文』をそれほど重要視しな まず『五箇条ノ御誓文』と敬 天皇と関係する文書はすべて重 『五箇条ノ御誓文』と呼 の最後に 私は日本の 『五箇条の 『五箇条御誓 歴史に愛着 157

強い、

ポー はあるまい とも彼らの狙いは『五箇条ノ御誓文』にせよ『教育勅語 史的文書としての重みもなくなってしまうのである。 じで「御誓文」を「御」抜きにして「誓文」と呼んだら歴 抜きにして「所」「殿」と呼んだら滑稽だろう。それと同 思っている記者もいる。しかし「御所」や「御殿」を「御 わかにつけなくなるものがいる。「御」を抜けば ばせていただく。 行の歴史家の文章は機械的となり生命力に乏しくなるので しそのような操作を加えようとするから、イデオロギー うな偏向言語の使用を強制しようとするのであろう。しか にせよ、その重みをなくすところにあって、それでそのよ ツ選手に敬語は使うが宮中関係の話になると敬語をに テレビ局のアナウンサーには俳優とかス b いと 先 0

国是なのか。それとも近代日本を貫く国是なの 『五箇条ノ御誓文』は一八六八年というその時期かぎり か、尊王攘夷の尊王と攘夷は切り離せるの るものか、王政復古と国際主義には矛盾は 求メ」というインターナショナルな発想との関係は 本という固有のナショナルな宗教文化の伝統のある国柄と、 『五箇条ノ御誓文』に宣言された国際主義、「智識ヲ世界ニ この国是としての 『五箇条ノ御誓文』の意味は何か。 はある か離せない 0 か かない のか、 かな 0

『五箇条ノ御誓文』を公表した。
『五箇条ノ御誓文』を公表した。
『五箇条ノ御誓文』を公表した。
となる。その陰暦三月十四日、明治天皇は京都御所の紫宸殿で公卿・諸侯・百官を率いて、明治天皇は京都御所の紫宸殿で公卿・諸侯・百官を率いて、明治天皇は京都御所の紫宸殿で公卿・諸侯・百官を率いて、明治天皇は京都の明治元年となる。
その陰暦三月十四日、
の関係を儀式面から見てみよう。
慶応四まず神道文化との関係を儀式面から見てみよう。
の関係を

に会見、 キリスト教の文化に立脚した国であることを象徴している 統領が就任に際し聖書に手をあてて宣誓することが米国が に立脚した国であることを象徴している。 儀式の形式面から見ても明らかなように、 天皇・公卿・諸侯・百官が天神地祇に誓うということは べき新しい基本方針、 宣言することにより、 徳川幕府を倒した新しい維新政府は『五箇条ノ御誓文』を 箇条ノ御誓文』 西郷隆盛と旧幕府陸軍総裁勝安芳が江戸鹿児島藩邸で前 と同 その間、 様であろう。 江戸開城の交渉が成立したのが三月十四日、 これは偶然の一致だが、江戸では大総督府参謀 が京都の御所で誓われたと同じ日である これからの日本がそれによって進む 国是を宣言した。その宣言に際し、 それは米国新大 日本が神道文化

の『五箇条ノ御誓文』は御誓文発布の儀式が、天神地

皇のお歌の、 さくおしちぢめてしまうことである。日本では一番上に立 は理知には到達しえぬ優越者をすなおに受けいれる態度で センコトヲ庶幾フ」という天皇自身もいままで述べた徳目を常に という形式ではなく「朕汝臣民ト倶ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニ はない、日本の君主の姿勢をよく示しているように思われ を誓うという態度は、専制君主でもなくましてや独裁者で もった復古神道の影響があったが、天皇が臣下に遵守を求 成り立った。この形式は直接には王政復古に強い影響力を したいというのが日本の神道的な心であり、それは明治天 である。その天や空の広々とした心をできれば自分の心と いう心がけがある。それだから天皇も天神地祇に誓い、 つ人でも、自分に到達し得ない天をおそれ自らつつしむと あり、私たちをとりまく神秘の前で私たち個人の存在を小 心に留めそれに服する願いを表明する態度に共通する)。神道と る(そのような姿勢は明治二十三年の『教育勅語』が君主の命令 めるだけではなく、天皇も天を敬い天神地祇に国是の遵守 国是の遵守を天皇に誓約する誓詞奉呈儀式という二つから 祇に誓う祭祀というまつりごとと公卿・大名・百官がこの 「臣民ト倶ニ」同じ徳目に「拳々服膺」することを希うの

あさみどり澄みわたりたる大空の広きをおのが心とも

がな

などによく示されているように拝察する。

開国から愛国へ

その『五箇条ノ御誓文』が新しい時代の開幕を告げる宣言であったとするなら、明治二十三年(一八九〇年)、同じ言であったとするなら、明治二十三年(一八九〇年)、同じ言であったとするなら、明治二十三年(一八九〇年)、同じ言であったとするなら、明治二十三年(一八九〇年)、同じ言であったとするなら、明治二十三年(一八九〇年)、同じ言であったとするなら、明治・大正・昭和前期を通じて二大文書であるばかりか、明治・大正・昭和前期を通じて二大文書であるばかりか、明治・大正・昭和前期を通じて二大文書であるばかりか、明治・大正・昭和前期を通じて二大文書であるばかりか、明治・大正・昭和前期を通じて二大文書であるが、明治・大正・昭和前期を通じての終焉とはいわないまでもあった。その二つは第二次世界大戦があるまではわが国である。その人は暗誦どころか中味もほとんど知らなかったであろくの人は暗誦どころか中味もほとんど知らなかったであるくの人は暗誦どころか中味もほとんど知らなかったであろくの人は暗誦どころか中味もほとんど知らなかったであろ

義を宣言した『五箇条ノ御誓文』の第四条と第五条にはの相違点は西洋に対する態度の変化にある。新しい国際主をはめた『教育勅語』の両者では、一体何が違うか。最大の開幕である『五箇条ノ御誓文』とその方向性に一定の枠では明治の日本国民に新しい方向を指し示し一つの時代

う。

排す」ることなどはできるのか。 は日本はアジアで覇権を確立し西洋本位の世界秩序から別 の方向転換をある人々は は西洋本位の世界秩序の中に組み込まれたことである。そ であった。しかし問題は華夷秩序から脱却したものの今度 中国中心の華夷秩序からの脱却をも間接的に意味するもの 洋主導の世界であった。その大勢に順応しようとすること という言い方をすることによって国際社会のルールに日本 の東亜新秩序を建設できるのか、 一歩進めていえば、 が従おうとする努力目標を掲げた。その際国際社会とは西 を宣言したものである。明治政府はここで「天地ノ公道 の広く世界に向かって開かれた、文化的・政治的政策方針 成功し政権を掌握した尊王派が、 ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起スベシ」とある。これは、 旧来ノ陋習ヲ破リ、 それ以前の攘夷主義や鎖国主義の否定であり、 鎖国時代の日本が暗黙裡に従ってきた 天地ノ公道ニ基クベシ。 「脱亜入欧」と非難した。それで 統一国家としての新日本 英米本位の平和主義を 智識 さらに 倒幕に ラ世界

国民目標としての模範をどこに求めるのか

ていた西洋に求めようとしていたのに対し、二十二年後の本人たちがその文化の優越――と意識された――を実感し『五箇条ノ御誓文』が、国民の目標としての模範を、日

ようとしていた。『教育勅語』は次のように始まる。『教育勅語』は、それを先験的な日本の歴史性の内に求め

肇国以来二千五百五十年続いたと称する「宏遠」な万世一などということは先ず誰も問題にしていないであろう――、いうに――兆という数字が億の十倍かそれとも億の一万倍か

ここで「億兆」という数が日本の人口の実数ではないよ

学者はいたに相違ない。しかしそのような歴史的起源や文 ある以上「此レ我ガ国体ノ精華」といってよいかと感じた すのであると感じていたにちがいない。忠孝という二大徳 であると感じていたにちがいない。忠孝という二大徳 の歴史も修辞的表現であった。日本人の多くはこれらは

少なかった、――漢学知識に富む人はそうも考えていたでは建前としては口にされたが実際には重んぜられることはでは孝行という徳目こそ重んぜられたが、忠義という徳目人は知識層にも多かったにちがいない。そもそも隣邦中国を明治の日本国民に指し示すことは結構だと納得していた

くの国民の側には別になく、忠孝を説くことで教育の

化的背景の是非を問う気持は

『勅語』を賜ったとされる多

に次のように具体的な徳目を述べた。

に次のように具体的な徳目を述べた。

されても、とくに違和感は覚えなかったのではないかと思されても、とくに違和感は覚えなかったのではないかと思われる。そして『教育勅語』は「爾臣民」に向かってさらわれる。それだから普通の日本人にとっては「我ガ臣民克あろう。それだから普通の日本人にとっては「我ガ臣民克

爾臣民ト倶ニ拳拳服膺シテ、咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾 で訴えるところがあった。国民の多くはそれを道徳的な目 でいる。ことがいいのか、「学ヲ修メズ業ヲ習ハヌ」ことがいいのか、「国法ニ遵か、「学ヲ修メズ業ヲ習ハヌ」ことがいいのか、「国法ニ遵か」ことがいいのか、といえば誰もそうは思うまい。それにこの勅語は努力目標であって命令ではない。天皇が上れにこの勅語は努力目標であって命令ではない。天皇が上れにこの勅語は努力目標であって命令ではない。天皇が上れにこの勅語は努力目標であって命令ではない。天皇が上れにこの勅語は努力目標であって命令ではない。天皇自身が結びに「朕から国民に強づない。天皇自身が結びに「朕から国民の大会」といる。

いて、立派な日本人となるように、祖父の教えを胸に抱いて、立派な日本人となるように、心から念願するものでいて、立派な日本人となるように、心から念願するものでいて、立派な日本人となるように、心から念願するものでをいう徳目が説かれているが、だからといって夫婦が不和という徳目が説かれている。『教育勅語』に「夫婦相和シ」とし、それを我が国の美点である「此レ我ガ国体ノ精華ニとし、それを我が国の美点である「此レ我ガ国体ノ精華ニとし、それを我が国の美点である「此レ我ガ国体ノ精華ニとし、それを我が国の美点である「此レ我ガ国体ノ精華ニとし、それを我が国の美点である「此レ我ガ国体ノ精華ニとし、それを我が国の美点である「此レ我ガ国体ノ精華ニとし、それを我が国の美点である。国民の多くはそのような強調でいる。「大きなともさまず、対しない。」というには、国父の教えを胸に抱いて、立派などともさまが、日本人となるように、祖父の教えを胸に抱いて、立派な日本人となるように、祖父の教えを胸に抱いて、立派な日本人となるように、祖父の教えを胸に抱いて、立派は、祖父の教えを胸に抱いて、立派は、祖父の教えを胸に抱いて、立派は、祖父の教えをいる。

体の精華」といった国家主義的観念が生れ、思想統制が始なことになり、ここに、超歴史的な「国体」あるいは「国なことを強要するような雰囲気が生じ、『教育勅語』の内ることを強要するような雰囲気が生じ、『教育勅語』の内とさ、容について批判的に言及することが許されなくなったとき、容について批判的に言及することが許されなくなったとき、いなくともさほど問題視しようとは思わなかったであろう。いなくともさほど問題視しようとは思わなかったであろう。

しかし『教育勅語』発布の明治二十三年当時、「国体のまったのだともいえよう。

二施シテ悖ラズ」という うべき一節であり、「之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ、之ヲ中外 徳器ヲ成就シ、進デ公益ヲ広メ、 全面的に反西洋的だったというのではない。 精華」を強調したからといって『教育勅語』 りであったともいえるのである。 を垂れようとする人が修辞的に強調した教育的配慮ともい ニ遵守スベキ所」というのは歴史的事実というよりも とする姿勢をもつところに特色があった。その意味では ていた諸価値を古来の伝統に即したものとして主張しよう るのではなく、むしろ、当時にあって普遍原理とみなされ 的事実を忘れてはならない。この意味において、この勅語 要素は採りいれられているのである。そもそも『教育勅 教的反動と呼ばれる『教育勅語』にも新時代にふさわし の最大のベストセラーとなったスマイルズの『西国立志 の学問の勧めは、 いたともいえる。「学ヲ修メ業ヲ習ヒ、以テ智能ヲ啓発シ、 0 「斯ノ道ハ實ニ我ガ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ、子孫臣民 `教育のすすめという点では西洋的な市民道徳を強調して 自国の伝統をそのまま普遍原理として主張しようとす が説いた市民道徳と内容的にほぼ重なる。 の執筆は最初は中村正直に委嘱されたのだという歴史 明治三年に中村正直の手で訳されて明治 『教育勅 世務ヲ開キ」という一連 語 の結びは一種の強が むしろ新時代 の内容自体が しばしば儒

外国の関係が示されている言葉としては、「一旦緩急アレ のごとくであった。しかし西洋の存在が 育勅語』では日本以外の国の存在は視野から消え去っ う非常の事態を想定した語句が存在するのみである。『教 バ義勇公ニ奉ジ、以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ」とい いる。しかしそうとはいえ、『教育勅語』の中では日本と の点では『五箇条ノ御誓文』とは発布時の性格を異にして 洋に直接触れることのない国民一般を対象としてい とともに誓った文言であるのに対して、『教育勅 『五箇条ノ御誓文』が京都の紫宸殿で日本の政治 国民全体を対象に教育というか国民道徳を述べてい 言されている。それに対して『教育勅語』は、天皇が広 を進むことが天皇・公卿・諸侯・百官を対象に高らかに宣 自国の独立を保全する手段として外国に学び文明開化の道 『五箇条ノ御誓文』では国際社会に遅れて参加した日本が 洋を中心とする外国の存在が影を落としていることだった。 時代のそれと違って、好むと好まざるとにかかわらず、 いるということだろう。幕末以降の日本史の特色は、 に比べて『教育勅語』の視野の中から他国の存在が消えて て判然とする。 教育勅語』 の特色は『五箇条ノ御誓文』との比較に 誰しもが気づく点は、『五箇条ノ御誓文』 11 · つ えい エリー 無視され 語 は西 お

「国体」イデオロギー

のみが高らかに宣揚されているこ

13

其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ」という結びにいたるまで一 兆心ヨーニシテ」から「朕爾臣民ト倶ニ拳拳服膺シテ咸なら ない り、それは始まりの言葉「我ガ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ、億 よって、国民内部の団結を計ろうとする意図が一貫してお とす影を払い切ることのできない日本人が、ことさらに内 貫してはっきりと表現されている。 通の国民道徳の遵守と、その道徳の淵源を共有する意識に 不安に満ちた姿勢を表わすものであった。この勅語には共 発の価値に依拠しようとした。『教育勅語』はそのような で示されていることからわかるように――外国の存在が落 合と逆にネガティヴな「一旦緩急アレバ」という場合のみ のは――外国とのかかわり合いが『五箇条ノ御誓文』の場 けっしてそうではない。 は、 日本人の自信の回復を示すものだろう 外国の存在が無視されている

の制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立す多くの量の基本的なものを取りこんだ。それらは、それら努力の幾分かを表現している、とでもいえよう。であった。『教育勅語』はそのアイデンティティー確認の

――そのような自尊心の傷つきやすい心理上の問題が底辺の制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なりでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なりでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なりでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度や観念なしでは国家のアイデンティティーを確立すの制度を観点を表している。

の愛憎関係が注目に値する所以である。 題と深いつながりを有する事柄に相違ない。日本の西洋と心を深くとらえたことがあったのも、その種の心理上の問たのではなかろうか。「国体護持」という言葉がかつて人機に際して、その後も不思議とも思えるほどの熱狂を示しにひそんでいたからこそ、日本人は対西洋諸国との外交危

ハーンが報じた勅語捧読式

例のよく通る朗らかな深い声で、まるで朗詠のような知事の来校を待った。知事は天皇のお言葉を各校で読知事の来校を待った。知事は天皇のお言葉を各校で読知事のところまで持ちあげ、巻物をひろげ、ふたたびられる。ゆっくりと絹織の袋から引き出すと、恭しめてある。ゆっくりと絹織の袋から引き出すと、恭しめてある。ゆっくりと絹織の袋から引き出すと、恭しめてある。ゆっくりと絹織の袋から引き出すと、恭しめてある。ゆっくりと絹織の袋から引き出すと、恭しめてある。ゆっくりと絹織の袋から引き出すと、恭しめてある。ゆっくりと絹織の袋から引き出すと、赤しいである。ゆっくりと絹織のところまで持ちあげ、巻物をひろげ、ふたたび、着が、おるで朗詠のような知事のようなが、まるで朗詠のような知事のような知事のような知事のような知事のようは知事のような知事のようは知事のような知事のような知事のようは、大きないというない。

こ。古式の読み方で一音一音に節をつけるごとく読み出し

We consider that the Founder of Our Empire and the ancestors of Our Imperial House placed the foundations of the country on a grand and permanent basis, and established their authority on the principles of profound humanity and benevolence.

That Our subjects have throughout ages deserved well of the state by their loyalty and piety and by their harmonious cooperation is in accordance with the essential character of Our nation; and on these very same principles Our education has been founded.

You, Our subjects, be therefore filial to your parents; be affectionate to your brothers; be harmonious as husbands and wives; and be faithful to your friends; conduct yourselves with propriety and carefulness; extend generosity and benevolence towards your neighbors; attend to your studies and follow your pursuits; cultivate your intellects and elevate your morals; advance public benefits and promote social interests; be always found in the good

observance of the laws and constitution of the land: display your personal courage and public spirit for the sake of the country whenever required; and thus support the Imperial prerogative, which is coexistent with the Heavens and the Earth.

Such conduct on your part will not only strengthen the character of Our good and loyal subjects, but conduce also to the maintenance of the fame of your worthy forefathers.

This is the instruction bequeathed by Our ancestors and to be followed by Our subjects; for it is the truth which has guided and guides them in their own affairs and in their dealings towards aliens.

We hope, therefore, We and Our subjects will regard these sacred precepts with one and the same heart in order to attain the same ends.

B・サンソム『西欧世界と日本』(ちくま学芸文庫)第十五となっていることが出来ない、としている。ちなみに G. をとても伝えることが出来ない、としている。ちなみに G. の公認の英訳文が引かれており、G ・ は違う 『教育勅語』の公認の英訳では原文が与える荘重な感じら拾ったことを注記し、翻訳では原文が与える荘重な感じら拾ったことを注記し、翻訳では原文が与える荘重な感じら拾ったことを注記し、翻訳では原文が与える荘重な感じられている。

章、三 教育の節にその英訳文も掲げてあるが、その「おそるべき」英語文体が酷評されている。(日本教育再生機構そるべき」英語文体が酷評されている。(日本教育再生機構とるべき」英語文体が酷評されている。(日本教育再生機構とるべき」英語文体が酷評されている。(日本教育再生機構度である。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにある。単純な人間が守るべき教えの基本を盛った達良さにあるが、その「おきになった。」とは思われない。

私が体験した勅語捧読式

校講堂に小学生もろとも集められたが、恒例の式が始まら思う。東京高等師範学校附属中学校生徒は焼け残った小学音が美しくめりはりがあった。しかし敗戦後のある日こんな椿事があった。昭和二十年十一月三日の明治節の朝かとな椿事があった。昭和二十年十一月三日の明治節の朝かとな椿事があった。昭和二十年十一月三日の明治節の朝読が声すって聴いた。歴代学長の中で河原春作学長の朗読が声はは小学校以来四大節に東京文理科大学学長が『教育勅私は小学校以来四大節に東京文理科大学学長が『教育勅私は小学校以来四大節に東京文理科大学学長が『教育勅

ない。 矢代幸雄所長は わざ可決したのである そして一九四八年六月十九日、 捧読の廃止、勅語・ たのだろう。そして実際、一九四六年十月、文部省は勅語 なくせざるを得ないのではないか、という怖れも逆にあっ れたが、戦後は を捧読してよいか否かわからず「勅語が見つからない」を す者の解職を通達した。それだから現場では 主義的教育の禁止を指令し、文部省も占領政策に反意を示 月、占領軍総司令部はいちはやく軍国主義的教育・超国家 からなくなったのだろうか。しかし敗戦後の一九四五年 たのだろうか。空襲か戦後か校舎が混乱して保管場所がわ は何だったのだろう。あの日本当に勅語は見あたらなか てそれきり次の四大節にも勅語捧読はなかった。 つからないという。それで捧読なしで式は終わった。そし [実に捧読なしにしたのだろうか。 『軍人勅諭』の失効確認 事務官があわただしく行きつ戻りつする。 『教育勅語』を捧読して校長は退任を余儀 『教育勅語』を誤読して退任を余儀なくさ 詔書の謄本の神格化廃止を通達した。 日本の衆参両院は『教育勅 排除に関する決議案をわざ 戦時中は美術研究所で 『教育勅語』 一体あれ 勅語 が見

後に教育を受けた民主主義世代の人たちは教科書で習った 生き、二つの そんな戦中・戦後の過渡期に生きた私は、 面を見たことで歴史の実物教育を受けた。 二つの時代を

> わりをくくられた明治前期の歴史について考えることも意 両者の相違を話題とし、その二つの文書によって始めと終 説き明かし、その中身を味わうのがよいと考える。そして のではないか。 ノ御誓文』と『教育勅語』を一くくりにして反対する人と、 り者だが、後者もやはり困り者だと思う。とくに『五箇条 が『教育勅語』の復権を主張する人もいる。私は前者も 効させられたことに不満を抱き、その中身もよく知らな 人もいる。またそれとは逆に、占領下に『教育勅語 ら『教育勅語』について話すること自体に拒否反応を示す なにか反動的という否定的な印象だけは持っている。 文』や『教育勅語』の名前は知っていても、 じないことがままある。それはいまの人は『五箇条ノ御 誓文』や『教育勅語』について私が話そうとしても話が ンが足りない。 ことをそのまま信じ、 いからである。中身は知らないが『教育勅語』については 一くくりにして賛成する人とがいるが、ともに単純すぎる だから戦後的価値の信奉者と『五箇条ノ 私はこの両文書についてまず文章に即して その点単純でソフィスティケー 内容を知らな 彐

だけはなんとか廃止できぬものかといった一九四五年十二 あの余りに仰 なお 『教育勅語』 Þ しい については内容よりもそれの 勅語捧読の儀式、 あ 0 ceremonialism 取扱い方、 味があるといいたいのである。

月当時の占領軍総司令部内部の議論に(11) 育内容に干渉してよいことにはならない しかしそれだからといって占領軍総司令部が日本の教 は 理あると私は思

伝

中年の ひょっとしてまだ信じているのだろうか、と考えた。 そ出さね思ったからであろう、 という国民教育はさすがに馬鹿々々しいと中国人も口にこ 暗誦する。 ば教育として悪いことではない。しかし文化大革命下の中 があるといったが、暗記は憶える対象が価値ある文章なら 安値となったのであろう。二十元で売っている人を見かけ 中国の民衆はもはやそんな党の指導に満幅の信頼を置いて 元だったかと記憶する。ちなみにその冒頭に出ているのは ていた古本の『毛主席語録』の値も天安門事件の後では十 誰も大声をあげて朗読しなくなった。北京の道端で売られ 開放路線に転ずると『毛主席語録』は顧みられなくなり、 玉 「很貴」と値切ろうとしたが応じなかった。そのときこ 「領導我們事業的核心力量是中国共産党」という言葉だが ないから『毛主席語録』 「のように何億という国民が声を揃えて『毛主席語録』を そして最後に『教育勅語』 の扱い方とも比べてみたい。 古本を売ってい 中学生の英語の時間はその英訳の暗誦で始まる、 、る男は の古本は日本円で二百五十円の の扱い方を隣国 鄧小平が実権を握って改革 『毛主席 暗記には良い面と悪い 語 録 0 『毛沢東語 0) 価 値 丽

> は、 威に慴伏する心理的伝統は かった。『毛主席語録』をうっかり上下逆さに手にもって などすれば三角帽子をかぶらされて吊し上げられ 誤読して辞職を余儀なくされたが、『毛主席語 自己の忠誠証明でもあった。日本で校長が『教育勅語』を 同様であろう。しかも『毛主席語録』をふりかざすことは 『モーセの十戒』などの押しつけに反対する人がいるのと 押しつけがましく感じられるであろう。それは西洋でも 徳律を押し付けられるのは困る。そうした権威主義的発想 かし「承詔必謹」「詔を承りては必ず謹め」と無条件に道 て無条件に有難がった知的風土と密接に関係している。 まって無条件で承認せねばならない。そしてそのような権 統である。 自己自身の考え方に従って行動しようとする人には |諭という皇帝の文書を謹んで承らせるのは中国文化 冒頭に掲げた皇帝なり主席なりの主 『論語』などを聖賢の教えとし 録』を誤読 かね 張を畏 0

から、 れは奉安殿が爆撃され御 わかった。そのとき田中良運先生が廊下に立ってい 疎開した。八月はじめの夜、 私は戦争末期金沢市からさらに市 それで寝ずの番をしていると私は思った。かつて御 真影や勅語 空が赤く富山が空襲されたと が焼失すると一大事だ のはずれ の第三中

とであろう。

振りかざしただけで周囲の非難を浴び反逆心を疑われたこ

御真影拝礼

たかをその時思い知らされた。

二本の梅を持って来て、こんなことを自分に言ったと書いチャを発見した人だが、ハーンはその石原生徒がある日、太郎はのちに東大医学部教授となってツツガムシ病リケッ

英語の先生と違います」御辞儀をなさるのを見ましたが、先生は前にいらした「先生が天長節の式の際に天皇陛下の御写真の前で

「どういう風に違いますか?」

「前の先生は私たちは野蛮人だと言いました」

「なぜです?」

と言いました」
卑俗で無知な者だけがそれ以外のものを尊敬するのだ
――そのキリスト教の神様以外に尊ぶべきものはなく、
「ゴッド――といってもその先生のゴッドですが

「その先生はどこから来た人ですか?」

「その先生は牧師で、英国臣民であると言っていま

した」

だってはいれないでしょう」がずには、女王様の御写真のある英国領事の事務室にを尊敬しなければならぬはずです。その人は帽子を脱てしかしもし英国臣民であるなら、英国の女王陛下

と思っていた。 蛮人で、卑俗で、無知で、凝り固まったクリスチャン」だ 変人で、卑俗で、無知で、凝り固まったクリスチャン」だ が、右の会話に出てくるような西洋人宣教師こそ、「野 洋の絶対的優位を当然自明のこととしない例外的な人だっ

崇拝の場合とは同日の論ではない」と書いている。 拝になるといえるのか。御真影拝礼の場合と異教徒の偶像というのなら、その写真の前でする敬礼がどうして偶像崇事に、「皇帝御自身の前でする敬礼が偶像崇拝にならない事に、「皇帝御自身の前でする敬礼が偶像崇拝にならないがジル・ホール・チェンバレンもこの件についてはハーバジル・ホール・チェンバレンもこの件についてはハーバジル・ホール・チェンバレンもこの件についてはハーバジル・ホール・チェンバレンもこの件についてはハーバジル・ホール・チェンバレンもこの件についてはハーバジル・ホール・

複眼の歴史観

結果かもしれないが、 り評価が高かった。学生の が第一で、一九四六年の『日本国憲法』(前文と第九条)よ 七九年当時の東大生が良しとしたのは との関係という見地から、その感想を問うた。すると一九 憲法』(前文と第九条)の三つを読み比べさせ、日本と外国 書であるとして『五箇条ノ御誓文』、『教育勅語』、『日本国 力という点で過去百五十年の日本史を通して重要な公式文 うのは、 私は東大の一般教育演習で、内容の是非はともかく影響 第二次大戦後の日本の歴史学界は左翼が乗っ その反応を興味深 感想は教師の意見に影響された 『五箇条ノ御誓文』 く感じた。 それと

n

は非常事態を想定していないという意味で安心感を与え

法 取 を書いた人が大半だが、まず文章という点で『日本国 演習に出た東大生はイデオロギーにあまりとらわれず感想 べきで、『教育勅語』は立派と主張する向きがいる。 中には昭和二十一年の占領下の『日本国憲法』こそ改正す 平和主義にたいしては評価が高 くはない。というか低い。それと裏腹に『日本国憲法』 ノ御誓文』やとくに った格好で、その人たちの手になる教科書では、 の翻訳調は一九四六年憲法成立における占領軍の 『教育勅語』にたいしては評 他方、 保守系の論客 |価が高 五五 圧 0 カ 筃

を感じさせる点で評判が良くなかった。

語 加えてきた際、 の交戦権はこれを認めない」は、 るため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しな 手段としては、 と武力による威嚇又は武力の行使は、 基調とする国際平和を誠実に希求し、 放棄」の の想定のみがある、いわば臨戦態勢を思わせる『教育 奉ジ、以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ」という非常事態 日本と外国の関係については「一旦緩急アレバ義勇公ニ は、 戦後世代には評判は良くなかった。 『日本国憲法』第九条「日本国民は正義と秩序を それにどう対処するかを述べてい 永久にこれを放棄する。 周辺諸 国権の発動たる戦争 国際紛争を解決する 前 玉 が軍事的 項 しかし 0 目 的を達 な 玉

大学側の入学試験問題も特定の史観に基く「正解」に丸を 分の頭で答えを考えさせるべきで、右であれ左であれ歴史 つけさせるような現状を放置してはならない。 二冊の歴史教科書代など安価なものではあるまいか。また そが本物の学問であろう。 高校では相対立する二種類の近代史教科書を生徒に購入さ 価に問題を解決しうる時期に近づいていると考える。 の相対立する歴史教科書問題については、私は文字通り安 事態はその後さして変化していない。しかし昨今の日本 複数の視点から歴史を再考させる。そのような訓練こ 教科書問題の深刻さに比べれば 受験生に自

> を自分の目で見させることこそが最良の歴史教育なのであ の授業を政治的洗脳の学習に使うべきではない。二つの 面

る

した比較日本文化論の一教授として私はそのことを願って すことのないよう自戒したい。二本足の学者の養成をめざ 隣国でも再び進行している。 いても愛国主義的歴史観や自虐史観の一つのみで判断を下 したごとく「開国から愛国へ」という精神史的変化は実は 馬立誠氏が二十一世紀の初頭に しかしいずれの国の歴史に 『戦略与管理』 誌で予測

注

いる。

向が見られたのである。

- 1 Sukehiro Hirakawa, "Japan's turn to the West", M.Janser Oriental, 2005), pp.47-126 にも再録されている。 Relationship with the West, (U.K.Folkestone: Globa れた形で Sukehiro Hirakawa, Japan's Love-Hate University Press, 1998), pp30-97 ならびにさらに補完さ Wakabayashi ed., Modern Japanese Thought, (Cambridge Press, 1989), vol 5, pp432-498. ed., Cambridge History of Japan (Cambridge University この論文は Bob T
- ちなみにこの詔書の冒頭に『五箇条ノ御誓文』を入れ 会の少年は別に驚かなかった。後年私は なお詔書の天皇の「人間宣言」という側面については都 ようにと指示されたのは昭和天皇ご自身であるという。 『平和の海と戦

2

成じたものである。 感じたものである。 感じたものである。 感じたものである。 感じたものである。 感じたものである。 感じたものである。 感じたものである。 感じたものである。 の海――二・二六事件から「人間宣言」まで』を執筆 の海――二・二六事件から「人間宣言」まで』を執筆 の海――二・二六事件から「人間宣言」まで』を執筆

- (3) 平川祐弘・竹山護夫 『古代中国から近代西洋へ――明治 日本における文明モデルの転換』は『竹山護夫著作集』 学の論文としては日本近代史を専門とした今は亡き義弟 学の論文としては日本近代史を専門とした今は亡き義弟 の協力に謝意を表してそちらに発表したのである。執筆
- (4) 大陸で秦の始皇帝から始めて歴代皇帝の名を読みあげ、人をいったならば、その人はどんな目に会うだろうか。最後に宣統帝溥儀といい、それから一呼吸おいて毛皇帝、(4) 大陸で秦の始皇帝から始めて歴代皇帝の名を読みあげ、
- (5) 官庁や大企業や大学の本流は日本とともに外国にも留学(5) 官庁や大企業や大学の本流は日本とともに外国にも留学で、留学志望者はおのずと増加するはずである。外交官で、留学志望者はおのずと増加するはずである。外交官で、留学志望者はおのずと増加するはずである。外交官で、留学志望者はおのずと増加するはずである。外交官で、留学志望者はおのずと増加するはずである。外交官で、留学で外国語の能力を求めない。
- (7) そのほか、戦時中は『宣戦ノ詔勅』を、また軍の学校を第十三章 明治初期・政治情勢 二 封建制の残滓。(6) G・B・サンソム『西欧世界と日本』(筑摩文庫)下、

してこう述べている。 本人の自国の文化が自発的であるとするお国自慢を批判本人の自国の文化が自発的であるとするお国自慢を批判内藤湖南は後に『日本文化史研究』に収められた『日本内藤湖南は後に『日本文化史研究』に収められた『日本

8

ばならぬ筈である。……忠孝と云ふ語の如きは、 云ふ意味の言葉であつて、親に対する特別語ではな し」とか「たか」と訓むが、其れは「善」「高」と ゐたか、殆ど発見しがたい。孝を人名としては、「よ 本民族が支那語を用ゐる以前に如何なる語で表して がある以上、 ら之を根本より考へて見ると、既に国民がもつて居 云ふことに解釈しやうと欲する傾がある。然しなが せるものに支那から輸入した名目を応用したものと 実は元来日本国民が十分に具へてゐて、自分が所 は勿論支那より輸入した語であるが、忠孝と云ふ つたとすれば、其の思想があつたか否やが大なる疑 ての忠孝と云ふことが、既に古代に其の言葉がなか 云ふやうな外に、特別な家族的な並に君臣関係とし 君に対する特別の言葉ではない。一般の善行正義と めやか」と云ふ義に訓するのは、 つた徳行の事実があり、而して又他方に固有の国 い。忠も「ただ」と訓むのは「正」の意味で、「ま 例へば茲に忠孝と云ふ事がある。 何か其の事実に相当した名目がなけ 親切の意味で是 忠孝と云ふ ń

らなみこ七こ|月 ノこ Tio Moor 問とするに足るではないか。

9

- alike by Their Descendants and the subjects, infallible ちなみに先に引用した The Museum 掲載の『教育勅語 れるようなものであろう。 の歌詞にはいずれも自国の美徳が強調される傾向が見ら 負は露骨に示されがちなものである。それは各国の国歌 る。なおこの種の宣言にはお国自慢といおうか国民的自 foundations of the Empire shall be extended となりとい れは穂積訳を踏襲したもので浮田訳では thus the promoting the welfare of the Empireとなっている。こ 基ヲ振起スベシ」は一九四六年には for the purpose of なる様は『五箇条ノ御誓文』についても同じで「大ニ皇 の異なることに驚かされる。なお英訳の仕方で印象が異 to all ages and true in all places.と比べると、その印象 bequeathed by Our Imperial Ancestors, to be observed The Way here set forth is indeed the teaching でいた。その英訳文を公認の英訳文の同一箇所の英訳文 い道」という真理性の強調のニュアンスはよほど薄らい 悖ラズ」という箇所に示された古今中外に通じる「正し 英訳には「之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ、之ヲ中外ニ施シテ
- Brill, 1972)。ただしウッダードの記述にはミッショナJapan 1945-1952 and Japanese Religions (Leiden: E. J. 本の面影』講談社学術文庫所収。

11

10

(東京大学名誉教授)

リー・プレジュディスに類した先入主も見られる。